

I 圏域のSWOT分析

圏域の強み弱みについては、現ビジョンにおける分析に加え、令和4年度に実施した地域の未来予測の結果等を基に、外部環境の機会・脅威については国の動向等を基に検討した。

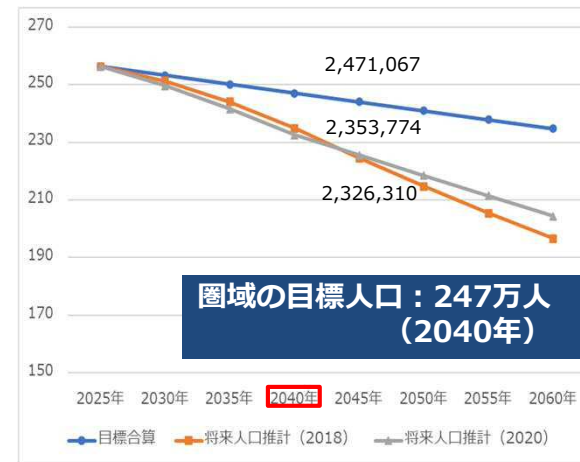
1 圏域の強み (S: Strengths)	
人的資源 (市民)	①圏域の女性比率が高い (豊富な人材)
物的資源 (天然資源、都市基盤)	②充実した都市機能 (学校・医療機関等が多い) ③豊富な観光資源 (観光地の集積 (Fビレッジ等)、雪を活用した観光) ④陸・海・空の交通の要衝 ⑤食の魅力 (ブランド力が強い、農業生産量が多い) ⑥圏域におけるDX化の先進的な取組 (リモート相談窓口等)
情動的資源 (協働からの評価)	⑦住みやすさ
2 圏域の弱み (W: Weaknesses)	
人的資源 (市民)	①20~29歳人口における道外流出増 (給与が低く、理系の就職が少ないため高度人材の呼び込みができない。生産年齢人口の減少) ②圏域における介護需要の増
財務的資源 (自治体の財政力・市民の経済力)	③圏域外から稼ぐ力が弱い (3次産業が主。製造業が少ない)
物的資源 (天然資源、都市基盤)	④公共施設の更新時期の到来 ⑤路線バスの利用低迷 ⑥移動手段を持たない高齢者の増加 ⑦生活圏への鳥獣の出現 (住宅街へのヒグマ出没)
3 機会 (O: Opportunities)	
政治・法律 (国の動向)	①新型コロナの5類移行 ②女性活躍の推進 ③子ども・子育て支援の促進 ④観光立国の推進
社会・経済 (社会経済情勢)	⑤製造業の生産拠点の国内回帰 ⑥次世代半導体メーカーの千歳市進出 ⑦ワーク・ライフスタイルの変化 (モノ消費からコト消費へのシフト、リモート勤務・ワーケーションの促進) ⑧道産食品の輸出拡大 ⑨海外旅行客の増加 ⑩札幌都心部のリニューアル ⑪人生100年時代の到来~健康寿命の延伸 ⑫豊かな自然環境 (豊富な水資源、広大な土地)
エコロジー (環境行動)	⑬脱炭素の促進
技術 (技術革新)	⑭DXの推進
4 脅威 (T: Threats)	
社会・経済 (社会経済情勢)	①生産年齢人口減による全般的な働き手不足、税金収入減 ②高齢者増による介護人材の不足、医療費の増 ③いびつな人口バランスによる社会保障費の増加 ④人口減少が進み、経済・都市機能との規模が合わなくなる ⑤ヒグマ生息状況の変化 (個体数増)
エコロジー (環境行動)	⑥自然災害の多様化 (頻発する豪雨災害等) ⑦地球温暖化

II 第2期ビジョンにおける重点施策

圏域の強みや外部環境による機会を活かし、圏域の弱みを克服するために、3つの視点において取組の基本的方向を検討し、以下の6つの項目を重点施策として設定した。なお、脱炭素の促進については全分野に係る基本的方向として整理した。

視点	重点施策	分野
産業	・圏域の強みを活かし、新たな人や投資を呼び込む ・圏域の経済を支える産業を支援する	経済成長のけん引
インフラ・行政サービス	・高次の都市機能の集積を活用した取組を推進する ・持続可能な行政サービスを提供する	高次の都市機能の集積・強化
暮らし・ひと	・暮らしの質を高め、住みやすい圏域をつくる ・圏域の将来を担う人材を育成・確保する	生活関連機能サービスの向上

III 目標人口と圏域の目指す将来像



「住みたくなる」「投資したくなる」、
「選ばれる」さっぽろ圏域

IV 基本KPI

役割	指標名	基準値	目標値
1 圏域全体の経済成長のけん引	圏域内民営事業所売上	28兆9千億円 (2020年)	30兆7千億円 (2028年)
	観光入込客数	30,273千人 (2022年度)	35,000千人 (2028年度)
2 高次の都市機能の集積・強化	札幌駅の乗車人員数 (1日平均)	128,600人 (2021年度)	191,851人 (2028年度)
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	20~29歳人口における道外への社会増減数	▲2,588人 (2022年)	▲650人 (2028年)